

第 18 回 放送番組審議会議事録

平成 28 年 4 月 6 日
株式会社シーエス・ワンテン
株式会社テレビ朝日

1. 開催年月日 平成 28 年 3 月 16 日 水曜 午前 10 時 30 分～12 時 00 分

2. 開催場所 株式会社テレビ朝日本社 8 階 特別会議室

3. 委員の出席

委員総数 8 名

出席委員数 7 名

出席委員の氏名

委員長 池井 優 (慶応義塾大学名誉教授)
委員 石田 則明 (無線システム研究所 代表)
委員 黒鉄 ヒロシ (漫 画 家)
委員 戸張 捷 ((株)ランダムアソシエイツ 代表取締役)
委員 藤田 興彦 ((公財) 児童育成協会 理事長)
委員 元村 直樹 (早稲田大学 基幹理工学部 講師)
委員 丹羽 美之 (東京大学大学院 准教授)

※欠席委員

委員 高木 美也子 (日本大学総合科学研究所 教授)

放送事業者側出席者氏名

株式会社シーエス・ワンテン 代表取締役社長 今堀 元則
業務推進本部長 渡辺 慎一

株式会社テレビ朝日 総合編成局編成戦略部長 赤津 一彦
戦略担当部長 高橋 良行
編成戦略部 前田 健太郎
編成戦略部 飯田 陸央
C S 事業部長 前田 寿之
C S 編成担当部長 丹野 裕一

4. 議 題

「テレ朝チャンネル1 ドラマ・バラエティ・アニメ」、
「テレ朝チャンネル2 ニュース・情報・スポーツ」の番組について

5. 議事の概要

- ・事業報告
- ・編成説明
- ・番組審議

「テレ朝チャンネル1 ドラマ・バラエティ・アニメ」課題番組の審議

『〇〇万円あったら××できるでしょ#60 #62』

「テレ朝チャンネル2 ニュース・情報・スポーツ」課題番組の審議

『昭和・平成鉄道の時代#19』

6. 審議内容

①シーエス・ワンテンの事業報告

○110度CS放送の加入者状況について、全体の加入者は210万件を超えたところで推移している。

②テレビ朝日CS事業部の事業報告

「テレ朝チャンネル1 ドラマ・バラエティ・アニメ」

○1月末現在、加入者世帯数508万件、昨年8月に500万件を突破し、順調に数を伸ばしている。

「テレ朝チャンネル2 ニュース・情報・スポーツ」

○1月末時点での加入者世帯は約630万件。

③テレビ朝日編成戦略部の報告

4月編成について

○世界中で動画配信が花盛りで特にスポーツが奮闘している。それを踏まえてメディア特性にあった編成を4月よりスタートする。

番組概要：

毎月、番組イチオシのイケメン俳優が、限られた予算の中でドラゴンズの鈴木拓をおもてなしします。イケメン流のデートプランを、“ブサイク”と“Twitter 炎上”でおなじみの鈴木が辛口対応で採点。果たしてイケメンは鈴木を満足させる事ができるのでしょうか？

#60 超特急②

今回は初のアイドルグループが登場！人気急上昇中の超特急から3人がやってきました。が、大学生のようなノリに鈴木は困惑気味。それでも、バラエティ経験が少ないゆえに、超特急も元気担当のユースケを中心に盛り上げようとしませんが、お笑いのプロの洗礼を浴びることに！

訪れた蒲田のアミューズメント施設で、卓球をやって鈴木をもてなそうとしますが、鈴木は、「ただ卓球をやって何が面白いの？もっと考えないと」と指摘。そこで、番組と鈴木からの提案で、古今東西ゲームでお題に答えながら、卓球をすることに！一方、鈴木のお題選択がイジワルで、ユースケはなかなかラリーを続けられません。それを責める鈴木！すると、ついにユースケに異変が…。果たして、人気イケメンに何が起こったのでしょうか!?

#62 佐多田三斗

注目の若手イケメン俳優をゲストに呼ぶ番組です。が、今回MCの鈴木拓が待ち合わせ場所に向かうと、とても若手には見えないオジサマが…。そこで当番組の趣旨を確認するためにも、過去の出演者の見どころをプレイバック。今まで銭湯で肉体美を披露してくれた八神漣、登場の際の天然ボケが印象的だった北村諒、戦隊ヒーローなのにお化け屋敷で取り乱してしまった多和田秀弥、笑いには自信があるとロケに挑んだ河原田巧也、美容にこだわったおもてなしの井深克也、初のグループとして登場し、ハイテンションで盛り上げた超特急など、若さ溢れるゲストが番組を彩ってきました。しかし、今回の佐多田さんはどう見ても若くはない！話を聞いてみると、日本有線大賞奨励賞を受賞したり、焼肉店を経営するなど、その素性が明らかに。さらに、代表曲のミュージックビデオを見ると、芸能界の大物たちの姿が！何となく危機感を感じた鈴木は、いつもと逆に佐多田さんをもてなそうと試みるのですが…。

<出演者>

鈴木拓（ドラゴンズ）、超特急（コーイチ、リョウガ、ユースケ）、
佐多田三斗ほか

〈委員意見〉

- タイトルとコンセプトが大きく変わってしまっているのが気になった。
- 他の番組でも続けていく間に別のところに鉱脈を見つけて、押し広げていったら結果的に内容が変わってしまったということがよくあると思うが、この番組の場合は迷走している。
- 作り手が考えるテレビ的におもしろいものだと視聴者に飽きられてしまうのではないか。
- 番組の中での（ナレーションをつけずにテロップでフォローする）無声映画のようなシーンはよかった。制作上のなんとかおもしろくしようという努力は見られた。

〈番組担当より〉

- 企画変更をし、大前提としてコアなところに訴求する意味合いで、「イケメン」にテーマを絞って昨年6月から放送している。「イケメン」見たさにファンの人に参加してもらうための施策である。
- 予算がない中でナレーションをつけずにテロップでフォローする演出をしている点を評価していただいたが、それ以外の点は番組の方向性が定まっておらず、どこに向けて制作しているのか見直す必要がある。
- ご意見を踏まえて、コアな方以外にも楽しんでいただけるような番組作りを目指す。

◆テレ朝チャンネル2 ニュース・情報・スポーツ

『昭和・平成鉄道の時代#19』番組審議◆

番組概要：

鉄道博物館特集を2回に分けてお送りします。今回は機関車特集。

C57型蒸気機関車のアーカイブ映像は戦前のものと思われる白黒映像をはじめ、鉄道開業100周年際して、汐留～横浜間で運転された記念列車の運行の様子、さらには、現在博物館で保存されている135号機が、室蘭本線で迎えたラストランの様子と、どれも貴重なものばかりです。

EF55型電気機関車は博物館でも人気の高い機関車です。戦争を体験した証である、銃撃の跡の残る運転室内は、その歴史を物語ります。

EF58型電気機関車 89号機のアーカイブでは、同61号機が「つばめ」「はと」の臨時特急としてリバイバル運転された時の映像を。

そして今回は鉄道博物館の秘蔵映像が特別に公開される事になりました。それが博物館収蔵の「丹那トンネル工事記録」の戦前の記録です。アーカイブに残された、交通博物館当時の学芸員さんの解説と共に貴重な場面をお届けします。

<出演者>

久野知美（フリーアナウンサー）

〈委員意見〉

- コンセプトが良く、CS放送にマッチした番組だと思う。
- 演出の方法に工夫が必要ではないか。演出次第でもっとおもしろくなる。博物館でもアーカイブ映像でもそこにあるのは「モノ」そのもの。そこにテレビ的な付加価値をどのようにつけていくかが演出のみせどころ。
- アーカイブ映像というゴミの山の中から宝を見つける目利きが必要。
- 番組の作り手がアーキビストやキュレーターや学芸員的な観点を持ち、これがいかに素晴らしいものか価値づけていくことが必要だと思う。
- ただ「モノ」としての列車ではなく暮らしと鉄道などを見てみたい。

〈番組担当より〉

- 地上波でも鉄道の番組は多いので専門チャンネルとの差異とをはかるということで放送局にしかできない番組を作ろうと報道アーカイブを有効活用する目的もあり、昔の映像を活用し番組を作成することをコンセプトにしている。
- 通常回はアーカイブ映像をつなぐ構成のマニアックな番組。今回は博物館の特集という事で大衆性に作成し初めて見る人にも見やすいように舵を切った。初めて見る人が見やすいような構成にし、引き続きより精度を高めよりよいものにしていく。

以上